

発見!おごおり遺産

No.15 水といのり

人々の生活に欠かせない水。市内では、古くは弥生時代から現在まで、水への感謝を表すまつりが行われてきました。



三沢の川祭り



ニタ鎌太郎のダブリュウ



空から見た三沢南崎遺跡4地点のようす

小

郡市は豊かな土地が広がる農業地帯ですが、地域のほとんどが低平で、宝満川の稻吉堰や多くのため池を築いて水の確保を図ってきました。そしてこの苦労は、水の恵みに感謝するまつりの存在へとつながります。

三沢南崎遺跡4地点では、約1800年前の弥生時代後期の流路が見つかり、その中からネズミ返しなどの貴重な木製品が出土しました。そして、この遺跡で注目されるのが、流路に沿って建てられていた掘立柱建物の存在です。流路の中からは、この建物から投げ込まれたような状態で多くの祭祀用土器が出土しました。つまり、この建物では、水に関するまつりが行われていたことが考えられます。

大崎後原遺跡2地点では、弥生時代中頃の井戸が3基見つかりました。1号井戸の中からは穴が空けられた壺が出土し、ここでも何らかの祭祀行為が行われたことが想定されます。

農業に牛や馬が活躍していた時代、農作業で泥が付いた牛馬の体は、水路の中で洗うことが一般的でした。こうして泥を水に流すことへのお詫び、そ

して水の恵みへの感謝を表す行事がダブリュウ(駄風流・馬風流)です。市内では特に南部に多く見られ、春と秋の彼岸の時期に、水際や水路の中に笹竹を立てて注連縄を張り、米や野菜、川魚などのお供え物を捧げます。

三沢の口無川にかかる内畑橋西側には、水神をまつった岩があります。古くは大正時代のまつりの記録が残り、現在でも毎年「川祭り」が行われています。ニタの鎌太郎では、整備された水路のほとりです。周りには美しい田園風景が広がり、私たちのくらしの原点を見るよつです。

力武の竈門神社には、水天宮がまつられています。これは明治28年(1895)年に建てられたもので、元は宝満川の鬼川原橋の側にありました。また、市南部では、赤川の天満神社、平方の天満神社など、境内に水神社・水天宮が祀られている神社が多くあります(赤川は、現在は本殿に合祀)。水神信仰には水への感謝や水難除けの願いが込められており、小郡市の歴史や特徴をよく表した信仰と言えます。

問合せ先 文化財課 ☎75・7555

おごおり遺産とは?》》近年の市内調査で「再発見」した文化遺産=市民のたからのこと